

—大山崎町スポーツ推進委員協議会—

【会長挨拶】

坂本 桂一



京都府スポーツ推進委員協議会の設立 50 周年を心よりお喜び申し上げます。記念すべきこの時期に会長を務めさせていただき、皆様方と活動を進められることに感謝するとともに、先達の皆様の御努力の賜物であることを肝に銘じ、心新たにしているところです。

さて、大山崎町スポーツ推進委員は、町内の子供からお年寄りまで皆様にスポーツに親しむ暮らしを楽しんでいただくことをモットーに、活動を進めてまいりました。しかし、スポーツに対するニーズの多様化、人口構成の高年齢化が進む中で、その活動継続の難しさを肌で感じているところです。50 周年を迎えるにあたり、メンバー全員が協力し顧客意識を高め、住民の皆様から信頼され、期待に応えられる活動を継続すべく、研鑽を重ねていきたいと存じます。

【沿革】

昭和 36 年 6 月にスポーツ振興法が制定され、翌 37 年度から町体育協会役員を中心に 10 名の体育指導委員を委嘱する。

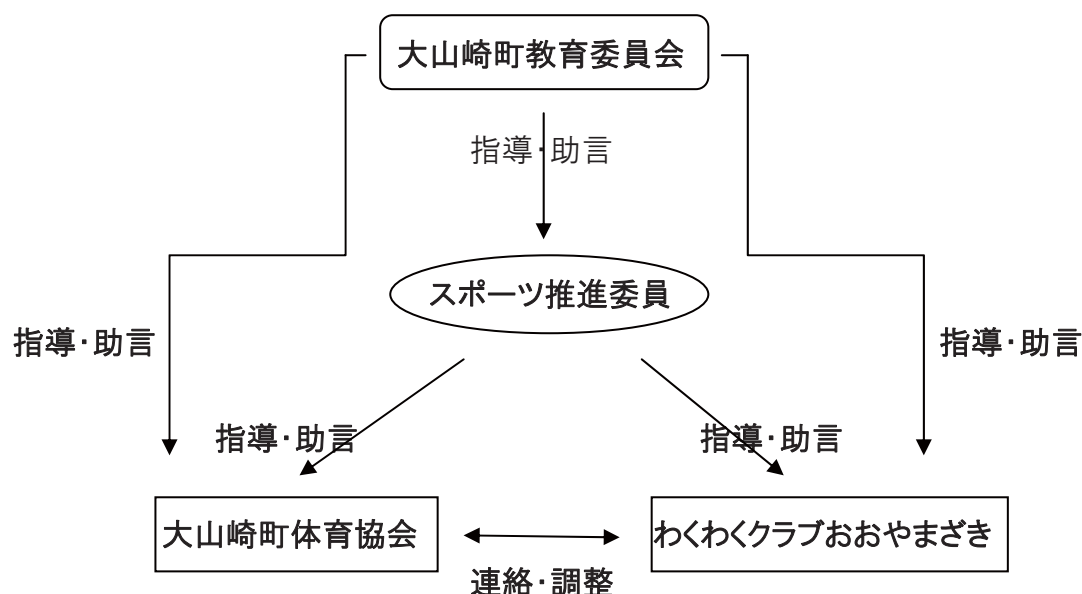
当初は、町体育協会の基盤づくりに力を注ぎ活動し、その後町のスポーツ推進を目指し、委員数を 15 名に増員する。

平成 14 年度からは、高齢者や小中学生のスポーツ推進を目指し、町内各小中学校教諭の派遣を受け、ニュースポーツをはじめ町民がスポーツに親しめる環境づくりや各種大会の開催、指導者の養成等スポーツ推進を図っている。

【組織】

[組織図]

大山崎町スポーツ推進系統図



[役員名簿]

会 長 坂 本 桂 一
副会長 河原崎 清 隆
" 小 島 弘 美
会 計 森 邦 子

[スポーツ推進委員数の推移（過去10年）]

	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	備考
男性	9	9	9	8	8	9	9	9	9	9	
女性	4	4	4	5	5	3	3	3	3	3	
(内、教員)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

※教員枠を設け、町内の全公立小中学校（2小学校、1中学校）より、教員の派遣を受ける。

【歴代会長】

昭和 37 年度～平成 3 年度 河原崎 進
平成 4 年度～平成 5 年度 清水 弘三
平成 6 年度～平成 7 年度 森田 肇
平成 8 年度～平成 9 年度 岸本 勝治
平成 10 年度～平成 11 年度 辻村 栄治
平成 12 年度～平成 21 年度 恵嶋 繁雄
平成 22 年度～ 坂本 桂一

【事業内容】

町体育協会の行事における運営サポートと競技指導を主な事業としており、特に秋に行われる町民体育祭は中でも企画から準備・運営まで参画する大きな事業となっています。

体協行事のスポーツ種目が、競技スポーツからより参加しやすい「ニュースポーツ」に変わっていくことに合わせ、事業内容も新しい種目の開拓や普及に力点が置かれるようになっていきました。

近年では、平成 19 年に設立された総合型地域スポーツクラブ「わくわくクラブおおやまぎ」の立ち上げにもかかわり、その運営にも積極的に協力しながら、町民の皆さんへスポーツの振興を図っているところです。

【今後の取組み(展望)】

町民のみなさんのニーズを捉え、時代に相応しい活動となることを心掛けていきたいと思えます。町体育協会、総合型地域スポーツクラブ「わくわくクラブおおやまぎ」との連携を今後とも強化することを基本とします。さらに、最初にスポーツに触れる子供たちに継続して生涯の友としてスポーツを選んでもらえるように、PTA などとの連携も図っていききたいと思います。

小さな町ですので、出来ることも限られているため近隣の市町との合同企画など情報交換、連携にも挑戦していききたいと思います。

—宇治市スポーツ推進委員協議会—

【会長挨拶】



宮脇 勉

京都府スポーツ推進委員協議会設立 50 周年おめでとうございます。
本協議会は 36 名のスポーツ推進委員が所属しております。本協議会のスポーツ推進委員は市民がスポーツを「する、みる、支える」環境を整えるべく、多くの事業を展開しております。課題はたくさんありますが、市民が生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」を送ることのできる環境づくりを目指し精進していきたくと考えています。

【沿革】

- 昭和 37 年 宇治市体育指導委員会発足
- 平成 12 年 近畿体育指導委員研究協議会を宇治市にて開催
- 平成 17 年 中ブロック体育指導委員優良団体表彰受賞
- 平成 23 年 宇治市スポーツ推進委員協議会に改名
- 平成 23 年 全国スポーツ推進委員優良団体表彰受賞

【組織】

〔組織図〕



〔役員名簿〕

会長：宮脇 勉 副会長：中川 悦子 田中 成司 関口 雅敏

〔スポーツ推進委員数の推移(過去 10 年)〕

15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年
45 名	44 名	44 名	38 名	40 名	38 名	38 名	40 名	37 名	36 名

【歴代会長】

- 昭和 3 7 年～昭和 4 3 年 和田 安治 (3 期 6 年)
- 昭和 4 3 年～昭和 4 7 年 古家 武夫 (2 期 4 年)
- 昭和 4 7 年～昭和 4 9 年 浅田 昌三 (1 期 2 年)
- 昭和 4 9 年～昭和 5 3 年 坂田 耕作 (2 期 4 年)
- 昭和 5 3 年～昭和 5 7 年 藪内 治 (2 期 4 年)
- 昭和 5 7 年～昭和 6 1 年 中島 一夫 (2 期 4 年)
- 昭和 6 1 年～平成 8 年 井上 陽男 (5 期 1 0 年)
- 平成 8 年～平成 1 0 年 井本 茂美 (1 期 2 年)
- 平成 1 0 年～平成 1 6 年 辻川 直行 (3 期 6 年)
- 平成 1 6 年～平成 2 0 年 山本 岩央 (2 期 4 年)
- 平成 2 0 年～平成 2 4 年 市川 紀和 (2 期 4 年)
- 平成 2 4 年～ 宮脇 勉

【事業内容】

◎主催・協力事業

障害者スポーツ大会、市民スポーツまつり・太陽が丘スポーツカーニバル、市民駅伝競走大会、宇治川マラソン大会、ショートテニス大会、市民ファミリーバドミントン大会、各種研修（年3回程度）、管外研修（2年に1回）レッツニュースポーツ（4日間×3回）、ニュースポーツひろば（年24回程度）

◎派遣事業

夏休み子どもフェア、連合育友会スポーツ交流大会、うー茶んフェスタ

◎会議

総会（2年単位で5回。委嘱の年が3回）、各部会（年8回程度）

※上記事業の企画、立案段階から積極的に関わり、また、地域の行事への参加協力等も行っている。



【今後の取組（展望）】

1 地域スポーツの推進

地域住民と行政のコーディネーターとしての役割を果たすため、地域における活動を積極的に展開し地域スポーツの推進を図る。特に子どもたちがそれぞれの地域で安全に楽しく過ごせるよう、学校や地域住民が取り組む活動に積極的に協力する。

地域の体育振興会と連携を図り、運営を円滑に行えるよう積極的に協力するとともに、体育振興会が組織されていない地域においては、引き続きその組織化に努める。

2 スポーツ教室・大会等の開催

市民のスポーツ実施率の向上を図るためスポーツ推進委員協議会が主体となり多くの市民が参加できる魅力ある事業を検討し実施する。

3 各種団体への指導者派遣

各種団体より、ニュースポーツの指導者派遣要請に対して積極的に協力し、団体の自主的なスポーツ活動の普及を図る。

4 総合型地域スポーツクラブの支援

総合型地域スポーツクラブとして活動をしている東宇治スポーツクラブへの指導者の派遣、運営委員会への参画などによりクラブの活動を積極的に支援する。また、他の地域において、新たなクラブ設立ニーズに対応できるよう情報の収集、調査研究等を行う。

一城陽市スポーツ推進委員協議会一

【委員長挨拶】 木佐一 憲治



京都府スポーツ推進委員協議会が今年で 50 周年という記念すべき節目を迎えるに当たり、心からお祝い申し上げます。

私たち城陽市スポーツ推進委員協議会は、社会体育振興会と小学校からの推薦により組織しており、地域と学校の両者と結び付きが深いことが大きな特色となっています。グラウンドゴルフやラージボール卓球などの今はすっかり定着しているニュースポーツを、まだ全く知られていない時から研修を重ね、社会体育振興会等の協力を得ながら普及活動を行い、地域に根付かせるよう取り組んできました。

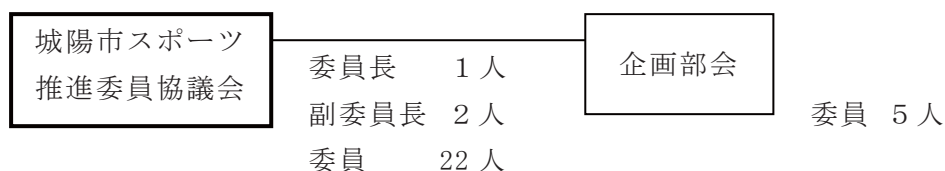
今はファミリーバドミントンの普及に取り組んでおり、今年 12 回目の大会を開催します。これからも地域住民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、委員 25 人が一丸となってニュースポーツの普及に取り組んでいきたいと考えています。

【沿革】

昭和 37 年	城陽町社会体育指導委員が委員 8 人で発足
昭和 50 年	委員の選出方法を小学校区 2 人・中学校区 1 人に、定員を 25 人に変更
昭和 61 年	京都国体で新しく導入された市町村対抗デモンストレーション競技「綱引き」の普及活動を実施
平成 5 年 6 月	グラウンドゴルフ大会を初開催
平成 14 年 2 月	近畿体育指導委員研究協議会において、城陽市発祥のニュースポーツ「エコロベース」を紹介
平成 14 年 3 月	ファミリーバドミントン大会を初開催
平成 21 年 11 月	木佐一委員長が全国体育指導委員功労者表彰を受賞
平成 22 年 6 月	京都府体育指導委員研究大会で黒田委員が城陽市の取組みを発表
平成 24 年 10 月	城陽市スポーツ推進委員の活動を周知するため広報紙を作成
平成 24 年 11 月	木佐一委員長が全国スポーツ推進委員 30 年勤続表彰を受賞

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

委員長	木佐一 憲治
副委員長	上野山 英雄
副委員長	黒田 行雄

[スポーツ推進委員数の推移]

	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度
人数	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

【歴代委員長】

期 間	氏 名
～ 平成 5 年	宮田 福太郎
平成 6 年 ～ 平成 11 年	福原 博
平成 12 年 ～ 現 在	木佐一 憲治

【事業内容】 (平成 24 年度)

[主催事業] 深谷小学校区ファミリーバドミントン教室 (1月)
市民ファミリーバドミントン大会 (2月) など

[協力事業] キッズスポーツ広場 (キンボール) (6月)
城陽市心身障がい児者スポーツまつり (9月)
城陽市民陸上競技大会 (10月)

[研修等] 子ども会スポーツまつり (10月)
城陽マラソン大会 (3月) など
城陽市スポーツ推進委員実技研修会 (フラッグフットボール、ファミリーバドミントン、ビーチボール、キンボール、マイパック)
京都府、近畿、全国スポーツ推進委員研究協議会
山城地方スポーツ推進委員交流会、山城地方スポーツ推進研修会 など

【今後の取組 (展望)】

今後とも積極的に新しいニュースポーツの研修に参加しながら、社会体育振興会や子ども会、PTA、高齢者クラブなどと連携を深め、すべての世代が気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。



↑平成 24 年度第 5 回定例会議にて

↓平成 23 年度城陽マラソン大会



一八幡市スポーツ推進委員会

【委員長挨拶】 佐野 恵理子



京都府スポーツ推進委員協議会が設立 50 周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

昨年、体育指導委員がスポーツ推進委員にその名称が変わったとき、「連絡・調整」という新しい役割が求められることとなりました。本格的な生涯スポーツの時代を迎え、市民の皆さんが気軽にスポーツに親しめる環境づくりのために、その役割が増していることと思います。

今まで以上に研修を重ねて、本市の活動テーマでもある「運動靴を履いたことがない人に、運動靴を履いてほしい」を一人でも多くの方に広めていきたいと考えています。

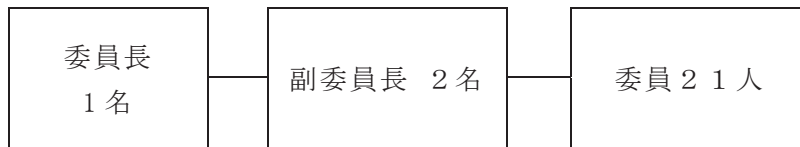
【沿革】

- 昭和 37 年 八幡市体育指導委員会発足
- 平成 21 年 中ブロック体育指導委員優良団体表彰を受賞
- 平成 24 年 八幡市スポーツ推進委員会に名称変更

【組織】

[組織図]

総員 24 名（平成 24 年 4 月 1 日現在）



[役員名簿]

- 委員長 佐野 恵理子
- 副委員長 山口 修平 鷹野 明子

[スポーツ推進委員数の推移（過去 10 年）]

	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
男 性	11	12	12	12	12	13	13	13	13	10
女 性	13	12	12	12	12	11	11	11	11	14
合 計	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24

※ 各年 4 月 1 日現在の人員

【歴代委員長】

昭和45年～昭和58年	奥田 紀
昭和59年～昭和60年	奥村 将一
昭和61年	沢井 剛
昭和62年～平成 6年	奥野 千里
平成 7年～平成 9年	泉 弘
平成10年～平成12年	廣中 圭司
平成13年～平成17年	室 恵子
平成18年～平成21年	山口 修平
平成22年～	佐野 恵理子

【事業内容】

◎主管・協力事業

障がい者スポーツ大会、八幡市民マラソン大会、
市民ふれあいウォーキング、ファミリースキー&スノーボードツアー

◎派遣事業

市内の PTC 行事、八幡市ろうあ協会グラウンドゴルフ交流大会、
シルバー人材センター互助事業、地域祭り、児童センター職員研修、
地域体育振興会連合スポーツ交流会、体育協会・競技種目団体交流会

◎会議・実技研修

定例会・実技研修 月1回第2火曜日
役員会 不定期

【今後の取組（展望）】

1 「スポーツ・ライフ」の普及奨励

八幡市スポーツ推進委員の使命は、スポーツを通じて生きがいのある生活を八幡市民に送って頂くため、個々人の年齢や体力、趣味、嗜好にあったスポーツを紹介することです。

八幡市内の各種団体と協力しながら、スポーツの普及奨励に努めていきます。

2 高齢者や障がい者のスポーツの機会の拡大

高齢者や障がい者は、運動やスポーツをする機会が不足しがちなことから、スポーツ推進委員がそのお住まいの地域まで出向いて、体操やニュースポーツを体験していただく機会を増やしていきます。

3 研修の充実

ベテラン委員の指導力を新任委員に確実に継承するため、毎月1回の定例会で主に実技研修を実施しています。今後、その研修内容を充実させて、スポーツ推進委員の技量向上を図ります。

—京田辺市スポーツ推進委員会—

【委員長挨拶】 木下 静子



京都府スポーツ推進委員協議会設立 50 周年おめでとうございます。

京田辺市は、市制 15 年目を迎え教育委員会とスポーツ推進委員が市民一人に一つのスポーツを目標に日々努力をしています。

特に自分一人ではなかなか体を動かすことができない高齢者や身障者に焦点をあて、楽しく笑いながらいつの間にか体力がつく教室を行っています。

今後もより一層の内容を充実し、市民の皆様に喜んでいただける生涯スポーツの普及及び推進に努力して参ります。

【沿革】

昭和 33 年田辺町体育指導委員会として発足

平成 9 年 4 月京田辺市に市制施行に伴い、京田辺市体育指導委員会となる

平成 23 年 9 月京田辺市スポーツ推進委員会に名称変更

【組織】

委員定数 20 名以内。互選により委員長 1 名副委員長 3 名選出

〔委員名簿〕

委員長	木下 静子	委員	高橋 悦子	委員	高岡三樹子
副委員長	山中 宏夫	〃	吉村 幸子	〃	餘語 二郎
副委員長	細田 貴子	〃	竹内 友子	〃	戸邊 智子
副委員長	姫路 桂子	〃	田中 久代	〃	楠木規与志
委員	高橋 仁美	〃	伊家 京子	〃	山岡さおり

〔スポーツ推進委員数の推移（過去 10 年）〕

	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年	21 年	22 年	23 年
人数(人)	20	20	20	14	18	18	17	18	17	17

【歴代会長（委員長、幹事長）】

昭和 53 年度～ 奥西 弘昌 昭和 62 年度～ 奥西 弘昌 平成 24 年度～

昭和 55 年度～ 緒方 靖信 平成 8 年度～ 丸山 敏文 現委員長

昭和 57 年度～ 乾 浩之 平成 10 年度～ 大塚 清治

【事業内容】

- [主催事業] にこにこステップ（軽体操教室）
- [協力事業] 京田辺市小学生ハンドボール大会
京田辺市陸上競技大会
京田辺市マラソン大会
生涯スポーツフェスティバル
京田辺市市民駅伝競走大会 など市社会体育事業補助
市主催事業及び体育団体事業の協力
市公共施設等主催事業補助
地域スポーツ推進団体事業指導
- [研修等] 京都府、近畿、全国スポーツ推進委員研究協議会
山城地方スポーツ推進委員交流会、山城地方スポーツ推進研修会
京田辺市スポーツ推進委員研修 など

【今後の取組（展望）】

- 1 主催事業を増やす。
- 2 高齢者や身障者などスポーツ弱者に対する支援を行う。
- 3 委員の資質向上と、組織の充実を図る。



—木津川市スポーツ推進委員会—

【委員長挨拶】

尾崎 田鶴



京都府スポーツ推進委員協議会設立 50 周年、おめでとうございます。木津川市も合併して 6 年目を迎え、委員会も無我夢中で走ってきましたが、少し落ち着き、一つ一つの事業を見直しながら、地域のニーズに合わせてスポーツの推進を図る一員として努めています。

今後も委員一同、一致団結して生涯スポーツの普及・振興に頑張りたいものです。

【沿革】

平成 19 年 3 月 12 日、「木津町」・「加茂町」・「山城町」の 3 つの町が合併して「木津川市」が誕生し、木津川市体育指導委員会（現木津川市スポーツ推進委員会）が発足。

【組織】

委員定数 40 名以内。互選により委員長 1 名選出。

【委員名簿】

任期（平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

委員長	尾崎 田鶴	委員	亀井 順子	委員	松原 稔
委員	河口 宏	委員	小西 彰	委員	永野 彰
委員	木村 勝	委員	光橋 通信	委員	駒 雅文
委員	石本 将隆	委員	吉形 和子	委員	末松 千佳
委員	戸嶋 尚子	委員	杉田 賢知	委員	森川 恭美
委員	堀 久美子	委員	徳山 昌伸	委員	染井 洋子
委員	波尻 寛之	委員	宮川 慶子	委員	新田 浩
委員	大倉 竹次	委員	青井 栄子	委員	早川 幸子
委員	藤原千鶴子	委員	高橋 和子	委員	谷川 博則

【スポーツ推進委員数の推移】

平成 19 年度…36 名（男性 22 名、女性 14 名）
 平成 20 年度…36 名（男性 22 名、女性 14 名）
 平成 21 年度…28 名（男性 16 名、女性 12 名）
 平成 22 年度…27 名（男性 15 名、女性 12 名）
 平成 23 年度…26 名（男性 13 名、女性 13 名）
 平成 24 年度…27 名（男性 14 名、女性 13 名）



【歴代委員長】

尾崎田鶴（平成 19 年 3 月 12 日～現在に至る）

【事業内容】

ジュニアドッジボール大会（5月）

小学5・6年生で構成されたチームが、毎年約30チーム参加。児童・保護者から開催希望の声が大きい。



ニュースポーツを楽しむ日（6・9月）

毎回3～4種目のニュースポーツを紹介し、体験を行う。



小学生陸上教室（8月3回）

小学4～6年生を対象に、遊びの中で走ることが速くなる教室。2回は市内小学校グラウンド、1回は奈良市鴻ノ池陸上競技場で実施。



スポーツ教室（11月3回）

ニュースポーツの普及のための教室として開催。3年間ショートテニス教室を継続し、その後1年間育成して、自主運営できる団体となった。



市委員研修会（年1～2回）

これまで、ニュースポーツ（ショートテニス、キンボール、ディスクゴルフ、ビーチボール、カローリング、ペタビンゴ）を中心に、3B体操、熱中症講習、普通救命講習を実施。



委員派遣事業（年6～7回）

市民等（PTA、公民館、児童館等）の求めに応じて委員を派遣し、ニュースポーツの指導などを行う。

上部団体の研修会等への参加（年4～5回）



【今後の取組（展望）】

人口が日々増加する中…、

- 1 市民のニーズを察知し、市民がいつまでもスポーツを楽しめるための事業を展開する。
- 2 委員のより一層の資質向上と組織の充実を図る。

一久御山町スポーツ推進委員会

【会長挨拶】

大宮 竹志



久御山町は、山城盆地の南西部に位置し、京都市、宇治市、城陽市、八幡市に隣接しており、中央部は工場・倉庫などの事業所、東部一円に住宅、西部は近郊野菜・野菜苗などを生産する農園が広がっています。

また、昭和41年に国道1号線が開通し、京都・大阪間の恵まれた立地条件により工場や事業所が進出、近年では第二京阪道路や京滋バイパスが開通し、さらなる発展が期待されています。

当委員会では、住民のニーズに合わせた取り組みを展開し、既存のスポーツ、事業にとらわれず、より新たな事業に関わる生涯スポーツの取り組みを発信しています。

また、住民の方々が生涯にわたりスポーツを通じて心身ともに健康で豊かな生活を営み、精神的な充実感を味わうことができるよう、地域に密着した事業を積極的に推進しています。

【沿革】

昭和41年 「久御山町体育指導委員会」設立

平成24年 「スポーツ基本法」の施行に伴い、名称を「久御山町スポーツ推進委員会」に変更

【組織】

【組織図】

組織名	職名	人数	内容
久御山町 スポーツ推進委員会	会長	1名	委員会を代表し、委員会の会議の議長となる。
	職務代理	1名	会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときその職務を代理する。
	委員	11名	議事を処理する。
	事務局 担当者	若干名	委員会の事務を処理する。

【役員名簿】

(平成24年11月1日現在)

会長	大宮 竹志
職務代理	高月 裕子
委員	11名

【スポーツ推進委員数の推移】

	平成15年度 ～平成22年度	平成23年度	平成24年度
人数	13名	12名	13名

【歴代会長】

期 間	氏 名
昭和41年度～昭和45年度	稲村 皓三
昭和46年度～昭和56年度	河崎 忠次
昭和57年度～平成3年度	飛田 重三
平成4年度～平成13年度	田口 嗣郎
平成14年度～平成22年度	曾東 正一
平成23年度～現在	大宮 竹志

【事業内容】

○教室

- ・小学生ドッジボール教室（対象：久御山町内小学4～6年生 年7回開催）
- ・いきいきスポーツ教室（対象：久御山町在住・在勤者 年6回開催）

○大会等

- ・久御山町民運動会（対象：久御山町住民）
- ・久御山町小学生夏季ドッジボール大会（対象：久御山町内小学4～6年生）
- ・久御山町小学生冬季ドッジボール大会（ 〃 ）
- ・スポーツに親しむ日（対象：久御山町在住・在勤者）
- ・久御山町健康づくりスポーツレクリエーション祭（対象：久御山町住民）

【今後の取組】

久御山町スポーツ推進委員会では、住民のスポーツ活動の需要に対応するため、本町の社会体育関係団体との連携を保ちあいながら有機的なつながりを持ち、各種教室やスポーツ大会等の推進を図ります。

また、住民の誰もが、生涯にわたって主体的に「いつでも」「どこでも」「いつまでも」スポーツに親しむことができる環境づくりをするため研修等に積極的に参加し、久御山町スポーツ推進委員の指導力の向上等に努めます。

－井手町スポーツ推進委員会－

【委員長挨拶】



栗田 善嗣

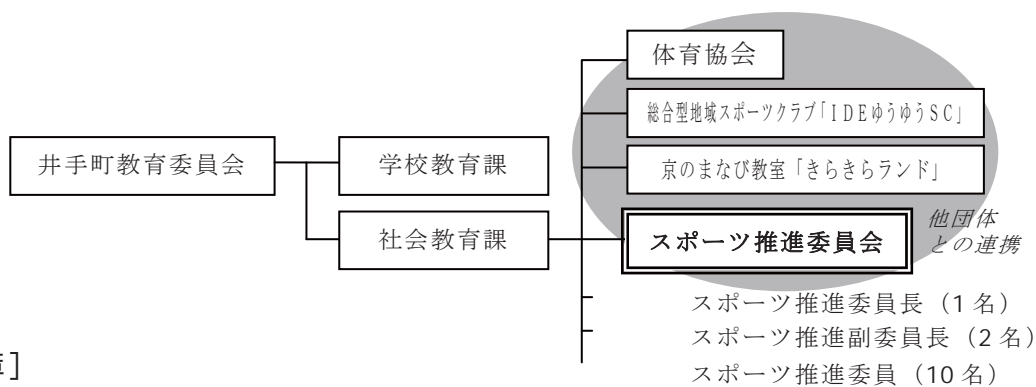
京都府スポーツ推進委員協議会設立 50 周年おめでとうございます。
 我が井手町のスポーツ推進委員会も設立から 39 年目を迎えました。
 地域住民の健康やうるおいのある生活を支援すべく、ニュースポーツ
 の普及やレクリエーション活動など、健康増進、住民相互の親睦を深め
 る事業に日々取り組んでいるところです。
 今後も、京都府との連携を図りながら、生涯スポーツの振興に努めて
 参ります。どうぞよろしくお願いたします。

【沿革】

- ・昭和 4 9 年 4 月 井手町体育指導委員会 設立
- ・昭和 5 8 年 4 月 井手町体育協会の発足を支援
- ・昭和 6 3 年 1 0 月 京都国体 ボクシング競技の開催を支援
- ・平成 9 年 8 月 全国高校総体 ボクシング競技の開催を支援
- ・平成 1 1 年 1 0 月 総合型地域スポーツクラブ「IDE ゆうゆうスポーツクラブ」の発足を支援
- ・平成 2 1 年 2 月 中ブロック体育指導委員連絡協議会 優良団体表彰 受賞
- ・平成 2 3 年 1 0 月 井手町スポーツ推進委員会に名称変更

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

氏名	職名	在任年数 (H24年度末時点)
栗田 善嗣	委員長	36年
中田 邦和	副委員長	21年
古川 幸子	副委員長	19年
古川 裕計	委員	27年
村田 忠文	委員	26年
田中 保美	委員	19年
岩城 喜和	委員	16年

氏名	職名	在任年数 (H24年度末時点)
横田 純一	委員	15年
相川 尚美	委員	12年7ヶ月
八木 真知子	委員	9年
寺村 勝彦	委員	4年
西島 寛道	委員	4年
清水 敏継	委員	2年

【スポーツ推進委員数の推移（過去10年）】

- ・平成15年度～20年度 13名
- ・平成21年度 12名
- ・平成22年度～24年度 13名

【歴代委員長】

- ・初代委員長 河野 拙也（昭和49年度～昭和54年度）
- ・第2代委員長 阿辻 亮治（昭和55年度～昭和59年度）
- ・第3代委員長 森川 聡（昭和60年度）
- ・第4代委員長 奥西 康人（昭和61年度～平成19年度）
- ・第5代委員長 栗田 善嗣（平成20年度～現在）

【事業内容】

●ニュースポーツ教室の開催

- ・町内の体育施設でニュースポーツ<カローリング、ペタンク、ペタビゴ等>の教室を実施。全5回程度。
- ・町内学校のPTAソフトバレーボール大会の練習会に参加。バレーボールの練習を補助する他、ニュースポーツ体験コーナーを設け、その普及に努める。



●小学校体力テストの支援

町内2つの小学校の体力テスト実施日に来校し、実施種目・運動方法の説明や計測などの活動を支援。

●体育協会と連携した社会体育行事の運営

秋の「町民体育大会」を始め、ソフトボール、バスケットボール、フットサル、バレーボール、ゲートボール、グランドゴルフ、ボーリング、バドミントン、マラソンなど、各種町民スポーツ大会の運営に参画し、中心的な役割を果たす。

●総合型地域スポーツクラブと連携したスポーツ教室の運営

総合型地域スポーツクラブ「IDEゆうゆうスポーツクラブ」の運営委員としてスポーツ推進委員6名が参画し、小学生対象の各種スポーツ教室の指導者やコーディネーターとして活動。

●京のまなび教室と連携したスポーツタイムの運営

地元小学校の京のまなび教室「きらきらランド」の運営委員として、スポーツ推進委員長が参画し、子どものスポーツ活動を支援。

【今後の取組（展望）】

これまでスポーツ教室など上述の事業を通して、住民の健康・体力づくりや、世代間・地域間の交流を図ってきた。

今後は、井手町の生涯スポーツをより振興していくために、高齢者など、場を設定するだけでは参加してもらいにくい人にも運動に親しんでもらえるよう、人の集まる場所に出向いていく出前型の事業を一層推進していきたい。

—宇治田原町スポーツ推進委員会—

【委員長挨拶】

栢木 喜文



私たちの宇治田原町は宇治市、城陽市に隣接し、永谷宗円翁が青製煎茶の製法を考案された「緑茶発祥の地」としても知られ、周りを山に囲まれた緑豊かな町で、スポーツ推進委員 15 名が力を合わせて活動を行っています。

現在、スポーツをめぐる状況は大きく変化し、スポーツの価値や社会的役割の重要性もさらに高まってきております。

最近は無縁社会という言葉もあり、人間関係が希薄な社会になりつつありますが、ともに競い交流する中で、スポーツを通じて人と人とが結びつくことは、とても大切なことであると認識しています。

そのような中、スポーツ推進委員会だよりを通じて出張ニュースポーツの情報を発信し、また、町教育委員会が子どもの居場所づくりとして取り組む、放課後子ども教室～まなび茶ろん～等への参画など積極的に取り組んでいるところです。

本町では住民の誰もがいつでも、どこでも、いつまでも、気軽にスポーツに親しみ、健康の増進や心豊かな地域づくりを目指すために、「町生涯スポーツ振興プラン」がスタートしております。

「運動・スポーツ頻度」「スポーツ行事への参加」「運動意欲得点」の三つの項目の男女別における現在の数値を平成 26 年度までの 3 年後に向けて目標値を設定されていますが、今後なお一層教育委員会と連携を深め、地域の実情に応じた生涯スポーツの振興と普及に向け委員が個々の資質の向上を図ると共に、1 万住民の健康と地域のスポーツ交流、そして健康長寿社会の実現に寄与するスポーツ推進委員として精進を重ねて参りたいと考えます。

【沿革】

昭和 45 年 4 月 町体育指導委員設置

平成 24 年 4 月 昭和 36 年に制定されたスポーツ振興法が 50 年ぶりに全面改正され、平成 23 年 8 月にスポーツ基本法が施行されたことに伴い、「体育指導委員」を「スポーツ推進委員」に名称変更

【組織】

〔組織図〕

公益社団法人全国スポーツ推進委員連合

京都府スポーツ推進委員協議会

宇治田原町スポーツ推進委員会

事務局：町教育委員会教育課社会教育係（住民体育館内）

委員長（1 名）・副委員長（2 名）・委員（12 名）



【役員名簿】

委員長： 栢木 喜文 副委員長： 橋本 久美 竹尻 伸弘
委員： 松本 和三四郎 坪内 健二 片山 忠一 伊藤 加代子
 岩瀬 多佳子 安中 亮二 今西 泰子 玉置 小百合
 勝谷 健士 谷口 知美 矢野 幸次 大江 順

任期：2年（平成24・25年度）

[スポーツ推進委員数の推移（過去10年）]…15名（男性：9名・女性6名）

【歴代委員長】（過去25年）

松本 和三四郎 中嶋 春男 榎木 正
坪内 健二 片山 忠一 栢木 喜文（現在）

【事業内容】（主要な取組み）

☆トライアルキッズ

内容：記録に挑戦することで集中力及び持久力を養い、町内小学生の交流を深める。

種目：グループ・バンブー・ダンス、
ロープ・ジャンピング“10”、ドッジビー



☆ニュースポーツフェスティバル

内容：町商工祭会場の中で誰もが気軽に楽しめるニュースポーツ体験の開催。スタンプラリー形式でニュースポーツを紹介するとともにスポーツ用具の展示など。

種目：囲碁ボール、ペタンク、ネットネット、ディスクッター9、公式ワナゲ など



☆出張ニュースポーツ教室

内容：学校学年行事や高齢者サロンの団体等からの派遣依頼により、ニュースポーツの紹介やイベントの企画・運営指導など



【今後の取組（展望）】

地域におけるスポーツ振興のコーディネーターであるスポーツ推進委員として、時代の変化に応じた職務を果たしていくための資質の向上と、公益的な活動の充実が求められているとともに、委員自らが行動を起こせるような体制づくりも必要不可欠な時期に来ていると考えます。今後は、住民のニーズに合わせた取り組みを展開して行くなかで、既存事業にとらわれず、委員全員参加で独自の事業に着手し、「スポーツでもっと元気！宇治田原」を合言葉に教育委員会をはじめ体育団体等と連携を図りながら、より新たな事業に係わる生涯スポーツの取り組みを発信していきます。また、住民との交流を深め、その笑顔や喜びを我が喜びとし、スポーツ推進委員として誇りと自信を持って活動します。

－精華町スポーツ推進委員会－

【委員長挨拶】

森本 豊



京都府スポーツ推進委員協議会が設立 50 周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。誠におめでとうございます。

精華町スポーツ推進委員会は、スポーツが好きで、深い興味、関心があり、強いボランティア精神をもった 15 名の委員が相互に深い絆で結ばれ、各々意欲的に活動し、各種団体と連携しながら様々な事業を展開しています。

今後も委員一同、一致団結して地域の生涯スポーツの普及・振興に頑張りたいと考えています。

【沿革】

昭和 47 年、精華町社会体育振興会が創設され、その中から委員を選出して、昭和 48 年 11 月に精華町体育指導委員会として発足。平成 23 年に精華町スポーツ推進委員会に名称を改め、今日に至っています。

【組織】

委員定数 15 名以内、互選により委員長 1 名、副委員長 2 名を選出

【委員名簿】

任期（平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

委員長	森本 豊	委員	堀口紀代美	委員	有本 麗子
副委員長	中川 清史	委員	園田 和之	委員	武元 敬子
副委員長	西岡 幸子	委員	吉村 安弘	委員	橋爪 町子
委員	杉嶋 秀美	委員	奥村 康仁	委員	板原 淳子
委員	尾崎 洋子	委員	渡辺さわ子	委員	伊藤 和子

【スポーツ推進委員の推移（過去 10 年）】

平成 14 年度～平成 15 年度…15 名（男性 9 名、女性 6 名）

平成 16 年度～平成 17 年度…14 名（男性 8 名、女性 6 名）

平成 18 年度～平成 19 年度…15 名（男性 11 名、女性 4 名）

平成 20 年度～平成 21 年度…15 名（男性 10 名、女性 5 名）

平成 22 年度～平成 23 年度…15 名（男性 9 名、女性 6 名）

【歴代委員長】

古越 務（昭和 48 年 11 月 1 日～昭和 50 年 3 月 31 日）

片山 俊雄（平成 50 年 4 月 1 日～昭和 55 年 3 月 31 日）

岩井 政行（平成 55 年 4 月 1 日～昭和 62 年 3 月 31 日）

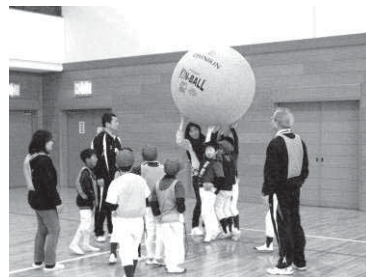
田中 昌夫（昭和 62 年 4 月 1 日～平成 3 年 3 月 31 日）

森本 豊（平成 3 年 4 月 1 日～現在に至る）

【事業内容】

◆ほほえみスポーツ広場（月 1 回）

毎月 1 回むくのきセンターアリーナを一般住民に開放し、ニュースポーツの普及を図る。



◆スポーツ体験デー（年 3～4 回）

小学校区ごとに、地域住民を対象とし、ファミリーバドミントン、キンボール、ショートテニスなどを実施。



◆委員派遣事業（年 6～8 回）

住民等（自治会・子ども会等）の派遣要請に応じて委員を派遣し、スポーツの指導などを行う。

◆協力・協働事業

・サマーキャンプ（7 月）

小学生 5・6 年生を対象にキャンプを実施。カウンセラーとして子ども達と共に活動を行う。

・町民体育大会（9 月）

町内全地域参加の運動会。主に競技審判として、委員の資質を発揮。参加者約 6,000 名程度。



・精華町子ども祭り（10 月）

スポーツ体験コーナーを開設し、ニュースポーツの体験指導を行う。

・精華マラソン（11 月）

マラソン大会に競技審判として協力。

・スポーツサンデー（3 月）

ニュースポーツの体験指導、及びドッジビー競技大会の審判として協力。



◆上部組織の研修会等への参加（年 4～5 回）



【今後の取組（展望）】

これまでの活動を更に研鑽し、多くの住民がスポーツを通して「楽しみ」「生きがい」を見つけ、いつまでも健康で、若々しく豊かな生活を送ることができるよう、地域や各種団体との連携を図り、指導・助言を行っていきたいと考えています。

－相楽東部広域連合スポーツ推進委員会－

【委員長挨拶】 井尾 幸



相楽東部広域連合スポーツ推進委員会の井尾です。本委員会は近隣3町村のスポーツ推進委員により組織され、管内3町村の住民の健康の維持増進や、ニュースポーツの普及など、スポーツの振興に日々奮闘しています。

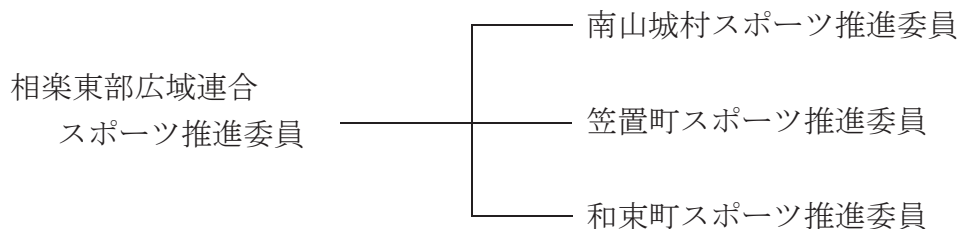
【沿革】

相楽郡南部に位置する和束町・笠置町・南山城村が事務の効率化等を目的として2008年12月に相楽東部広域連合が発足し、2009年4月に各教育委員会が「相楽東部広域連合教育委員会」としてスタートした。これに伴い、各町村の体育指導委員会が相楽東部広域連合体育指導委員会として一つとなった。

2011年8月24日のスポーツ基本法改正により平成24年4月1日より相楽東部広域連合スポーツ推進委員会に名称変更し、管内のスポーツ振興に寄与している。

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

委員長	井尾 幸						
副委員長	高岡 勇	乾 隆志	東 隆				
女性委員	廣尾 操						
委員	濱 忠志	藤田 好子	東中 卓代	岩崎 久敏			
	竹谷 保廣	谷本 昌隆	大西 巧	前出 陽子			
	渡邊 俊明	西田 祥史	田中 啓太	岩崎 慎也			
	林 嘉人	平田 槇子	木野 正男	辻田 修作			
	奥谷 善巳	内藤 芳男	岩崎貴代美	稲置 浩之			
	岸田 啓介	野川 昌英	北本 勝実	木村 宣			

[スポーツ推進委員数の推移（過去10年）]

2009年～2010年	31名
2011年～	29名

【歴代委員長】

2009年～2010年	竹谷 保廣
2011年～	井尾 幸

【事業内容】

スポーツ交流会
ウォーキング大会
スキー教室

教育委員会事業、各体育協会事業、地元行政区事業に参画

【今後の取組（展望）】

3町村での広域連合化により、各年齢層や世代間交流を含めたそれぞれの住民のニーズを探りながら、時代に即した住民の求めるスポーツ振興事業を展開していく。

一 亀岡市スポーツ推進委員連絡協議会 一

【会長挨拶】 奥野 正三



京都府スポーツ推進委員協議会が設立 50 周年を迎えられ、記念誌が発行されますことを心からお喜び申し上げます。この 50 年に渡る成果は確実に実を結び、今日までのスポーツ振興の基盤を構築されました。これもひとえに、関係者のたゆまぬ努力と情熱に深い敬意と感謝を申し上げます。

本協議会も貴協議会とともに、目標を高く掲げ、「誰もが」「身近に」「いつでも」スポーツに親しむことのできる環境づくりの推進、スポーツができる喜びをたくさんの方々に伝えていけるよう、苦勞と楽しみを分かち合える仲間とともに、未来に向け、邁進していきたいと存じます。

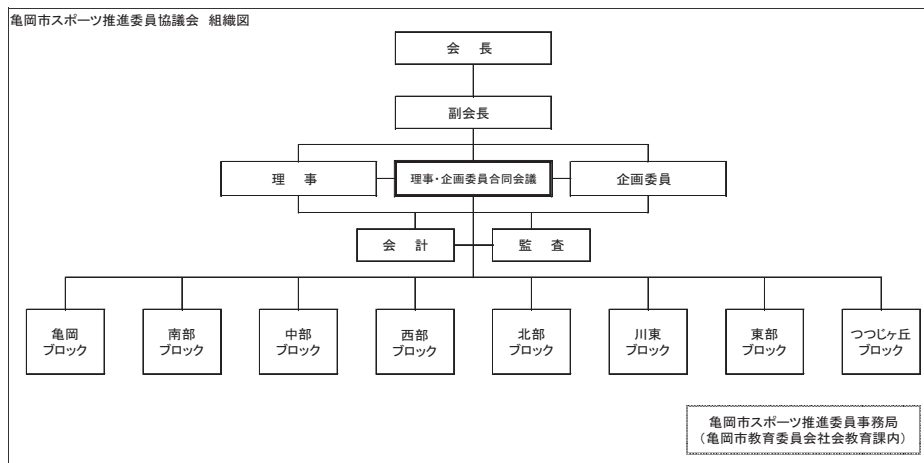
結びにあたりまして、貴協議会の更なる飛躍と発展を祈念しお祝いの言葉といたします。

【沿革】

昭和 40 年代から各競技種目別に選出された体育指導委員 10 名で発足され、昭和 55 年には地域住民のスポーツ振興が重要な任務と捉え、地域からの選出が加わり 30 名となりました。そして現在、多種多様なスポーツを得意とする 50 名で構成されています。

行政と連携のもと、地域に根ざしたスポーツ振興・普及活動等の事業に取り組んでいます。

【組織】



[役員名簿]

平成 24 年度亀岡市スポーツ推進委員役員名簿			
会長	奥野 正三	理事	中川 重昭
副会長	西村 禮子	理事	関 彰
副会長	福田 明美	理事	藤田 浩克
副会長	平井 和夫	理事兼企画委員長	三宅 泰宏
副会長	並河 芳昭	理事兼企画副委員長	山内 知行
副会長兼会計	浅田 美佐保	企画委員兼監査	宇佐美 年樹子
理事	山口 浩和	企画委員兼監査	稲本 理恵子
理事	農添 光陽	企画委員	高田 登紀子
理事	森中 多香子	企画委員	川勝 洋太

【スポーツ推進委員数の推移（過去10年）】

平成14年～平成24年 定員50名

【歴代会長】

- 初代 笠井 武夫
- 2代 橋詰 澄雄
- 3代 櫻井 俊則
- 4代 橋本 禎万
- 5代 平田 秀瑞
- 6代 大山 肇
- 7代 森田 健男
- 8代 奥野 正三（現在）



【事業内容】

- ・市民総合体育大会をはじめ、市や体育協会等が行うスポーツ行事等の協力と運営支援
- ・市民に対し、ニュースポーツの指導・普及
- ・その他住民スポーツ振興のための指導助言

地域でのニュースポーツを始めとしたスポーツ振興はもちろん、地域が一体となって活動することによりコミュニティの形成に貢献しています。

【ふれあいスポーツ・デー】

普段あまり触れる機会のないニュースポーツやレクリエーションを気軽に楽しんでいただくために、幼児から高齢者まで幅広い市民を対象に毎月1回ふれあいスポーツ・デーを開催しています。その中で開催されるスポーツ教室では、毎月違うニュースポーツを実施し、参加者にニュースポーツを身近に体験してもらうとともに、スポーツ推進委員の研賛の場となっています。また、利用者に楽しく毎回来ていただきたいという思いから、ふれあいスポーツ・デーのスタンプカードを導入しています。利用の際にスタンプを押し、たくさんスタンプが集まった方には、年度末におたのしみプレゼントをお渡しするなど、プチイベントを企画しています。

【ふれあいハイキング】

毎年、紅葉の時期に開催しており、だれもが手軽に参加できるハイキングです。亀岡の自然や歴史を楽しむハイキングコースを企画し、亀岡の自然や歴史に親しみ、亀岡の魅力を発見してもらうとともに、健康維持及び体力の向上と多くの人々とのふれあいの中で、仲間づくりを図ることを目的に開催しています。

【今後の取組（展望）】

スポーツ推進委員を中心に地域活性化を図り、年代を限らず魅力ある活動・スポーツイベントを企画運営し、スポーツを通して健康増進・交流の場を提供していきたいです。

—南丹市スポーツ推進委員会—

【会長挨拶】

徳田 利春



このたび京都府スポーツ推進委員協議会が、めでたく設立 50 周年の節目を迎えられ記念誌を発刊されますことを心からお喜び申し上げます。

貴協議会は、昭和 37 年 4 月に設立され、50 年の歩みとともに京都府下各市町スポーツ推進委員会と連携し、京都府内の生涯スポーツの振興並びに府民の健康増進、またスポーツの振興に大きくご貢献頂いておりますことに深く敬意を表するところであります。

今後とも連携を密にして、住民へのスポーツの推進を図るとともに生涯スポーツ社会の実現に向けて共に取り組んでまいりたいと存じますので、ご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

結びにあたり、50 周年を迎え貴協議会の益々ご発展と委員の皆様のご健勝、ご活躍をご祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

【沿革】

昭和 37 年 9 月、園部町において「園部町体育指導委員会」が設立。園部町のスポーツ施策に参画し、行政・体育協会と連携しスポーツ行事の計画、実施に携わってきた。

昭和 38 年 3 月、八木町において「八木町体育指導委員会」が設立。行政、地域体育振興会と連携し、八木町の地域スポーツの推進を図ってきた。

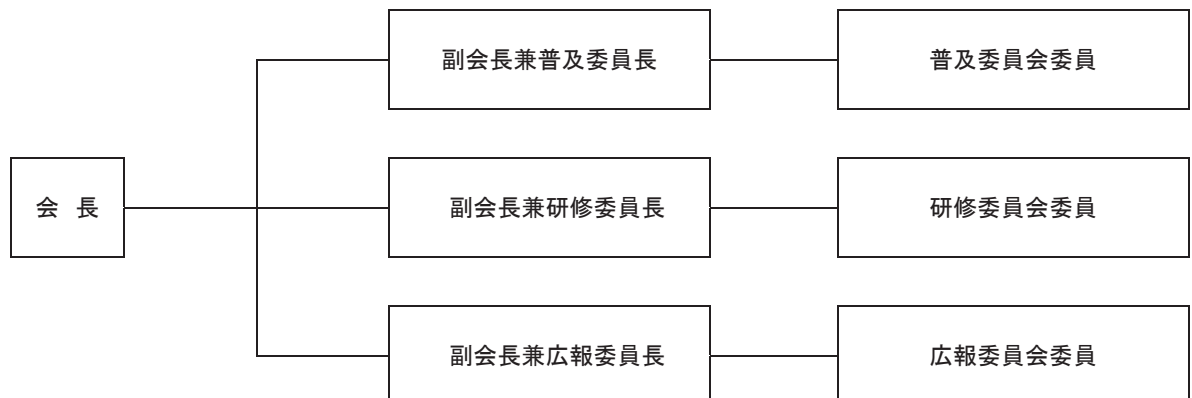
昭和 44 年 4 月、美山町において「美山町体育推進委員会」が設立。行政、振興会と連携を図り、スポーツの推進を行うとともに、住民の健康づくりを目的に地域、職場でのラジオ体操の普及、推進活動に力を入れその功績により NHK からの表彰を受けた。

昭和 50 年 7 月、日吉町において「日吉町体育指導委員会」が設立。行政、地域体育振興会、総合型地域スポーツクラブと連携を図り日吉町のスポーツの推進を図ってきた。

平成 18 年 1 月、園部町、八木町、日吉町、美山町の 4 町が合併し南丹市となった。市町村合併に伴い平成 18 年度、旧 4 町の体育指導委員会は「南丹市体育指導委員会」に再編され、平成 23 年度スポーツ基本法の施行に伴い名「南丹市スポーツ推進委員会」に名称変更を行い現在に至る。

【組織】

〔組織図〕



[役員名簿]

会 長 徳田 利春 南丹スポーツ推進委員協議会会長
副会長 齋藤 昌久（兼 普及委員会委員長） 南丹スポーツ推進委員協議会理事
山田 洋三（兼 広報委員会委員長） 南丹スポーツ推進委員協議会理事
湯浅 みさを（兼 研修委員会委員長） 南丹スポーツ推進委員協議会理事

[スポーツ推進委員数の推移]

年 度	委員数	年 度	委員数
平成18年度	25名	平成22年度	25名
平成19年度	25名	平成23年度	25名
平成20年度	25名	平成24年度	25名
平成21年度	25名		

【歴代会長】

南丹市合併前（各旧町）会長

- ◆森 為次（旧園部町） ◆齋藤 昌久（旧八木町）
◆川隅 富士夫（旧日吉町） ◆徳田 利春（旧美山町）

平成18年1月1日 南丹市合併

初代会長 川隅 富士夫
第2代会長 徳田 利春

【事業の内容】

市域が広範囲（約616km²）なため、旧町単位で巡回スポーツ教室を開催し、誰もが気軽にできるニュースポーツの推進を行っている。

また、地域体育振興会や市内各種団体よりスポーツ行事等へ指導者派遣依頼を受け、スポーツ指導を行うとともに、教育委員会、福祉関係団体、支援学校と連携し障害のある方へのニュースポーツ体験（フロアカーリング・金ボール・フリーブロー等）や市保健課が主催する高齢者を対象としたニュースポーツ教室への協力を行うなど、軽スポーツを通し体を動かすことの楽しさを市民に広く普及している。

【今後の取組】

昨年、スポーツ振興法の全部改正に伴い新たにスポーツ基本法が施行され、私たち体育指導委員はスポーツ推進委員と名称が変わり、市のスポーツ施策に参画するとともに、住民へのスポーツ推進へ更に深く取り組んでいかなければならないと思っております。

委員会では、ニュースポーツの推進として市民へ「ビーチボール」の普及に取り組んでまいりました。今後は、市内外に普及推進するとともに、「フロアカーリング」や「囲碁ボール」など子供から高齢者までが気軽に参加できるゲーム的なニュースポーツとあわせ、今年度より新たに「ノルディックウォーキング」にも取り組んでいきたい。

—京丹波町スポーツ推進委員会—

【委員長挨拶】



津田 勝二

京丹波町は、京都府の中央部に位置する人口1万6千人の小さな町です。町内には、府立運動公園などのスポーツ施設も複数あり、多くの方が本町においてスポーツを活発に行われています。

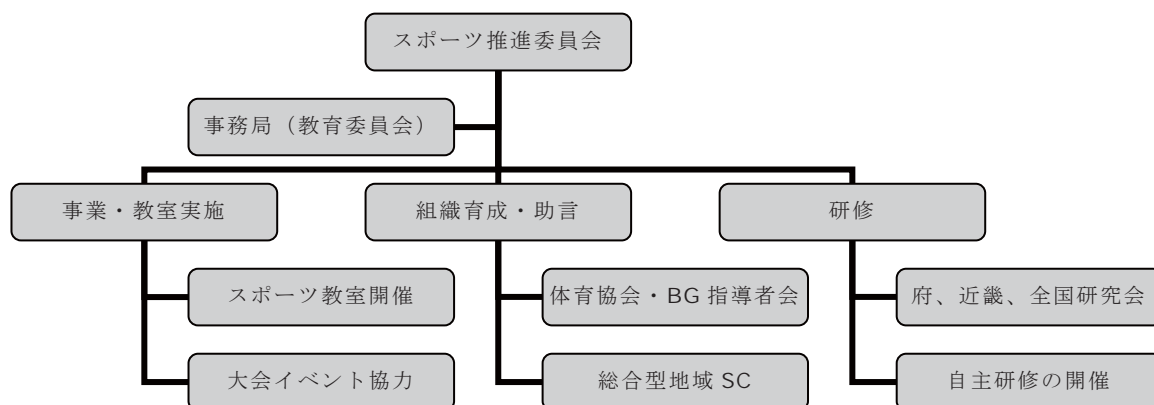
自然豊かな京都丹波の地を生かし、スポーツ推進委員自らが考え、行動できるような取り組みを進め、スポーツによる、元気な人、町づくりを進めていきたいと考えています。

【沿革】

- 平成17年10月11日 丹波町、瑞穂町、和知町が合併し京丹波町となる。
- 平成18年 4月 1日 京丹波町体育指導委員会設置する。
- 平成24年 4月 1日 京丹波町スポーツ推進委員会に名称変更する。

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

委員長	津田 勝二			
副委員長	片田 泰和	坂本 貴之		
委員	田中 敏夫	山下 貴典	西垣 正則	西田 和志
	東 清子	田端 敏子	永井 千鶴	瀬戸 豪
	猪阪 身和	中村 幸子	前谷 浩之	中川 和也

[スポーツ推進委員数の推移（過去10年）]

18年度	15名（男10、女5）	22年度	13名（男9、女4）
19年度	13名（男9、女4）	23年度	12名（男8、女4）
20年度	13名（男9、女4）	24年度	15名（男10、女5）
21年度	13名（男9、女4）		

【歴代会長（委員長、幹事長）】

平成18年度	川勝 忠司
平成19年度～23年度	田中 敏夫
平成24年度～	津田 勝二



由良川でのカヌー

【事業内容】

1 スポーツ推進委員主催事業

- テニス教室
- カヌー教室
- スキー教室
- ニュースポーツ教室
- シルバーオリンピック
- カヌーフェスティバル

2 団体との連携・協力事業

- 京丹波町駅伝競走大会（体育協会）
- 京都丹波ロードレース大会
- 京丹波町スポーツ少年団交流事業



インドアホッケー



シルバーオリンピック50m走

【今後の取組（展望）】

町内各地域の施設や人材を積極的に活用した取り組みが徐々に充実してきたと感じられるようになってきました。平成20年からは、カヌー競技を取り組み、委員自らの研修も重ね、町内外からの参加も増え、施設の利用者も増加の傾向にあるなど一定の成果を得ることができました。



スキー教室

ニュースポーツ教室で取り組んだペタンクにおいては、地域で実施した教室と共に、体育協会との連携により、大会の開催を行うことができました。まだまだ参加者も少ない状況であるが、体育協会との相互協力体制を充実し、今後も推進していきたいと考えています。

これまで、スポーツ実施機会提供のプログラムを中心に行ってきましたが、教室やイベントが終了するとやめてしまう方も多くありますので、スポーツを継続して行うことのできる仕組みづくり、総合型地域スポーツクラブなどの既存団体との連携、組織作りといった、アフターケアができる体制作りを進めていきたいと考えております。

過疎化、少子化、高齢化などの影響により、変化する・多様化するスポーツニーズを的確に把握しスポーツを行う機会の充実を図り「いつでも」「だれでも」「気軽に」スポーツ活動が行える基盤づくりを進めていくことが求められています。



ペタンク教室

—綾部市スポーツ推進委員連絡協議会—

【会長挨拶】

滝下 香代子



「健康長寿のまち綾部」

今や人生 80 年、90 年の時代です。綾部市においても少子高齢化が進み、市政は健康で長生きできるまちづくりを目指しています。心身ともにいつまでも若く健康で過ごせることは誰もが願うところであり、老若男女、それぞれのライフステージを豊かに生き生きと過ごすためのアイテムとしてスポーツ活動の需要は高まり続けています。

「する、見る、支える、語る」スポーツが文化の1つとしてより深く地域社会に浸透し、誰でもがスポーツに親しむ機会や場が提供できるようになればスポーツライフの振興だけでなく、地域コミュニティの強化にもつながると思われま

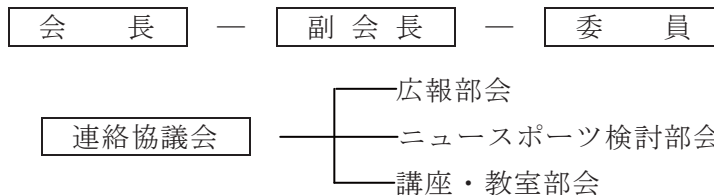
す。綾部市民の「こころ」や「からだ」の健全な発達を促進し、健康長寿で生きがいのある綾部市実現のために私たちスポーツ推進委員の活動が重要な役割を担っているという誇りを持って頑張っています。

【沿革】

- | | |
|------------------|---|
| 昭和 37 年 4 月 1 日 | スポーツ振興法に基づき教育委員会規則を定め、体育指導委員を設置（委員 16 名で発足） |
| 昭和 59 年 4 月 1 日 | 委員定数を 21 名以内に改正 21 名で年度のスタートを切る。 |
| 平成 8 年 4 月 1 日 | 協議会規則を制定 |
| 平成 23 年 8 月 24 日 | スポーツ基本法の制定に伴い教育委員会規則を改正し、「スポーツ推進委員」として再出発 |
| 平成 24 年 4 月 1 日 | 活動強化を図るため、協議会内に 3 つの専門部会を設置 |

【組織】

【組織図】



【役員名簿】

- | | | |
|------|--------|--------|
| 会長 | 滝下 香代子 | |
| 副会長 | 渡辺 弘造 | 大島 みどり |
| 女性理事 | 上原 あゆみ | |

【スポーツ推進委員数の推移（過去 10 年）】

- | | | | |
|-----------|------|-----------------|------|
| 平成 24 年度～ | 17 名 | 平成 22 年度～ 23 年度 | 21 名 |
| 平成 21 年度 | 20 名 | 平成 20 年度 | 21 名 |

平成18年度～19年度 21名 平成16年度～17年度 21名
 平成14年度～15年度 21名

【歴代会長】（過去10年）

期 別	会 長	副 会 長	副 会 長	副 会 長
平成24・25年度	滝下香代子	大島みどり	渡辺 弘造	
22・23年度	滝下香代子	衣川 厚	大島みどり	渡辺 弘造
20・21年度	滝下香代子	衣川 厚	佐堀 久人	大島みどり
18・19年度	林田 順一	衣川 厚	佐堀 久人	滝下香代子
16・17年度	林田 順一	衣川 厚	佐堀 久人	佐々木博子
14・15年度	林田 順一	衣川 厚	佐堀 久人	佐々木博子

【事業内容】

- 1 定例会（各月1回：12回）
 協議事項・諸連絡、随時ニュースポーツ指導研修等を実施
- 2 専門部会（3部会：随時開催）
 広報部会、ニュースポーツ検討部会、講座・教室部会
- 3 機関紙「スポすい通信」発行（年4回）
 トピック・教室案内等活動内容の情報発信、市広報紙・ホームページの活用等
- 4 ジョギング・ウォーキング教室等各種スポーツ講座、健康教室等の開催
 市民ニーズに対応した各種教室を競技団体等とも連携し開催
- 5 各種研修会等への参加
 中丹地区協議会、京都府協議会、近畿研究会等
- 6 各種スポーツイベント等に対する運営協力
 - ・二王門登山レース、里山サイクリングin綾部等各実行委員会開催事業
 - ・四都市体育大会、府民総合体育大会、チャレンジウィーク等体育協会開催事業
 - ・君尾山夏の大ジャンボリー等青少年育成事業及びスポーツ振興事業

【今後の取組（展望）】

全国的な例に漏れず、少子高齢化に伴い人口減少が著しく進行する状況下において、以前にも増してスポーツ、健康がクローズアップされ、明るく健やかな市民生活、住みよいまちづくりのための取り組みが重要視されている。こうした中でスポーツ推進委員に求められる役割も特に住民とスポーツをつなぐコーディネイト役へのウエイトが高まっている。

当協議会では、情報の発信や市民ニーズに沿った積極的な事業展開を図るため、平成24年度から「広報」、「ニュースポーツ検討」、「講座・教室」の3つの専門部会を設置し、目に見える活動を通して地域のスポーツ振興、市民の健康増進の取り組みを推進したいと考えている。

—福知山市スポーツ推進委員会—

【会長挨拶】



入江 一郎

京都府スポーツ推進委員協議会設立 50 周年誠におめでとうございます。
福知山市スポーツ推進委員会では、市民のスポーツに対するニーズが多様化する中、幼児から高齢者そして障害のある方など幅広くスポーツに親しむ機会を設け、市民のみなさんが、生涯スポーツをとおして心豊かであるおいのある生活を送っていただくことを願って委員一同「和」を重んじながら、日々研鑽を積んでおります。

【沿革】

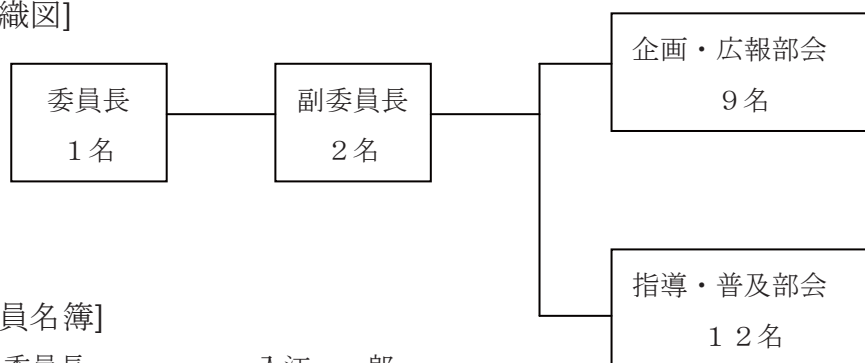
福知山市では、昭和 36 年に法律に基づく制度として体育指導委員が発足しました。当時より、市民のスポーツの実技指導に当たり、市民の体位向上に努めてきています。

また、平成 18 年に福知山市・三和町・夜久野町・大江町の一市三町が合併し、新しい「福知山市」としてスタートしました。体育指導委員の活動地域も広がり、各地のこれまでの特色を活かした取組みを進めています。

平成 24 年 1 月より、スポーツ基本法の制定により、スポーツ推進委員と名称を変更し、市民のスポーツ実技の指導や助言に加え、スポーツ推進のためのコーディネーターの役割を担った活動をしています。

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

委員長	入江 一郎
副委員長	井関 雅子
副委員長	寺川 慎治
企画・広報部長	高橋 千寿子
指導・普及部長	柏 一男

[スポーツ推進委員数の推移]

平成14年～15年	22名
平成16年～17年	19名
平成18年～19年	28名
平成20年～21年	26名
平成22年～23年	21名
平成24年～	22名

【歴代会長】

平成12年～平成21年	原田 とよ子
平成22年～現在	入江 一郎

【事業内容】

福知山市子ども大会への参加
春・秋の市民歩け歩け大会
福知山市スポーツレクリエーション祭
福知山マラソンファンラン運営
各種スポーツイベント等への講師派遣事業

【今後の取組（展望）】

子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加でき、スポーツを楽しんでいただけるようなスポーツ活動を企画し、その普及に努めます。

—舞鶴市スポーツ推進委員協議会—

【会長挨拶】

村川 正弘



京都府スポーツ推進委員協議会設立50周年おめでとうございます。
スポーツ活動は、豊かな生活を送るうえで重要なアイテムです！
現在、舞鶴市におきましては、地域やスポーツ団体からの推薦を受けた26名のスポーツ推進委員を2年の任期で委嘱しており、市民のみなさんがスポーツを通じて豊かな生活を営むことができるよう、市が行う各種スポーツ事業の企画・運営支援や、地域住民や各種団体などからの指導要請などに応えるなど、健康づくりや体力の向上、地域コミュニティの形成などに努めています。

【沿革】

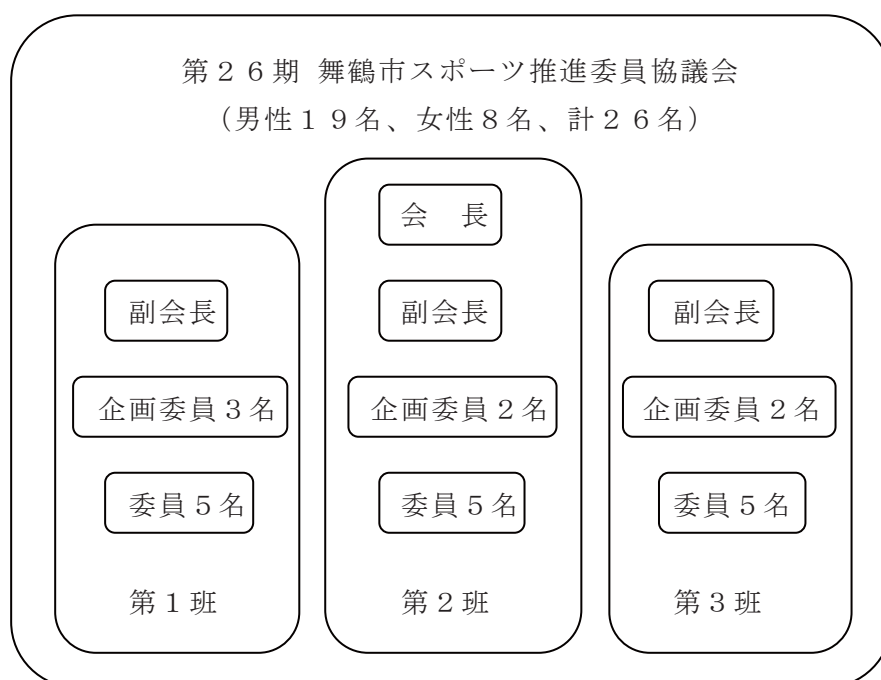
舞鶴市では、「スポーツ振興法」の規定に基づき、昭和37年4月1日から20名の体育指導委員を委嘱し協議会を設立しました。

委員の任期は2カ年とし、昭和59年度の第12期の委員委嘱から定数を27名に増員し活動を充実させております。

本年度からは『スポーツ基本法』の制定により、名称を「スポーツ推進委員」と改称し、心機一転再スタートをしたところです。

【組織】

現在は、26名のスポーツ推進委員を委嘱して（内女性委員は8名）協議会を形成し、会長1名、副会長3名、企画委員7名、全体を3つの班に分けて活動しております。



第26期 舞鶴市スポーツ推進委員協議会役員名簿

会 長 村川 正弘 副会長 村尾 邦夫、藤村 保夫、西村 あおい
企画委員 内藤 正嗣、岸本 浩、藤原 忠夫、柴田 知美、日高 康、
森川 靖彦、名村 史枝

舞鶴市スポーツ推進（体育指導）委員 委員数の推移

第1期（S37～38）～第11期（S57～58）	20名
第12期（S59～60）～第23期（H18～19）	27名
第24期（H20～21）～第26期（H24～25）	26名

【歴代会長】

初代会長 新国貞三（S37～46：5期10年、この間「府会長」も歴任）
第2代会長 藤原晴一（S47～54：4期8年）
第3代会長 櫻井 裕（S55～H3：6期12年）（H6：府会長、近畿会長）
第4代会長 緒形友義（H4～7：2期4年）
第5代会長 堀 義一（H8～13：3期6年）
第6代会長 梅本徳夫（H14～19：3期6年）
第7代会長 村川正弘（H20～現在：3期目5年目）

【事業内容】

主な活動としては、スポーツ振興に関する市が行う各種事業の企画や、運営支援、地域住民や各種団体等からの指導者派遣要請などへの対応のほか、『巡回スポーツ教室』と称して、各地域に入ってスポーツ教室や、体操教室を展開するなどし、スポーツを通じて豊かな生活を営むための、健康づくりや体力の向上、地域コミュニティの形成の補助に取り組んでいます。

毎年12月には「市民綱引大会」（市主催）を主管し、小学生から大人まで多くの参加を得て盛大に開催しています。

また、平成19年には『マイパック』というニュースポーツを考案し、高齢者団体を中心に紹介し、今年度も月1回のペースで何処かの地域で講習会や交流会を開催して、普及に努めています。

【今後の取組（展望）】

「スポーツ基本法」の施行に伴い「体育指導委員」も「スポーツ推進委員」として名称が改められ、新たな職務として、近年特にスポーツの推進のための事業実施に係る連絡調整係としての役割が重要性を増している。

今後は、市民のニーズをよく把握し、スポーツを通じて豊かな生活を営むために、生涯スポーツの普及と発展により一層努めていくことが必要と考えております。

一宮津市スポーツ推進委員一

【会長挨拶】



松岡 照幸

宮津市は、京都府の北西部に位置し、北は日本海に面し、海岸線一帯は若狭湾国定公園に指定され、特別名勝「天橋立」をはじめとする景勝地に恵まれています。この自然豊かな地で、10名のスポーツ推進委員が活動しています。

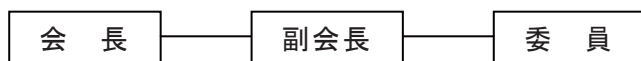
思い起こすと、昭和60年に実施した市民アンケートで、運動をしない理由として、「体を動かす習慣がない。」、「機会がない。」、「はずかしい。」、「へたくそだから。」などの意見があった事を踏まえ、誰でも気軽に出来る「巡回ニュースポーツ教室」をはじめました。今では、月に2回行なっている教室にはたくさんの方が参加されますが、10地域を巡回するため、同じ地域で継続できないのが課題です。今後も市民「皆スポーツ」を目指し、スポーツ推進委員が一丸となって頑張りますので、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

【沿革】

- ・昭和37年 4月1 宮津市体育指導委員会発足。
- ・平成23年11月1 法改正により宮津市体育指導委員会から宮津市スポーツ推進委員へ名称変更。

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

会長 松岡 照幸
副会長 森田美砂子
副会長 田中 誠一

1 宮津市スポーツ推進委員（旧体育指導委員）の人数

年度	男性	女性	合計	年度	男性	女性	合計
H15	7人	8人	15人	H20	5人	5人	10人
H16	7人	6人	13人	H21	5人	5人	10人
H17	7人	6人	13人	H22	3人	6人	9人
H18	6人	4人	10人	H23	2人	7人	9人
H19	6人	5人	11人	H24	3人	7人	10人

- 2 スポーツ推進委員平均年齢 54.4歳（平成24年10月）
- 3 任期2年
- 4 総面積 169平方キロ
- 5 総人口 20,211人（平成24年10月末日住基台帳）
- 6 総世帯数 8,785世帯（平成24年10月末日住基台帳）

【歴代会長】

平成10年4月～平成22年8月 桐村 憲昭
 平成22年9月～平成24年 松岡 照幸

【事業内容】

主催事業

月	行事名	内容
10月	宮津市民グラウンドゴルフ交流会	グラウンドゴルフ大会
3月	ビーチボールバレー大会	ビーチボールバレー大会

通年事業

月	行事名	内容
5月～2月	巡回ニュースポーツ教室	ニュースポーツの巡回指導 （地区公民館単位で月2回実施）

協力事業

- みやづ総合型クラブ天の架け橋～rainbow～のニュースポーツ DAY において、ニュースポーツの指導を行なうとともに、クラブイベントなどにも積極的に協力。
- 天橋立ツアーウオーク等、市が主催する行事への協力
- 市内小・中学校やPTA 主催の行事において、ニュースポーツの指導を実施。

【今後の取組（展望）】

○ニュースポーツの普及

ニュースポーツ教室などの活動を通じて、市民の皆さんが健康で、楽しく過ごせる街づくりを目指します。

みやづ総合型クラブ天の架け橋～rainbow～とも連携を図りながら、一人でも多くの市民の方々にスポーツに親しんでもらえる環境づくりをめざします。

—京丹後市スポーツ推進委員会—

【会長挨拶】



吉岡 毅

平成16年合併前迄は、町毎に別の組織として活動し、教育局の1ブロックとして総会のみ顔合わせの為、合併当初は組織としてのつながりしかありませんでした。

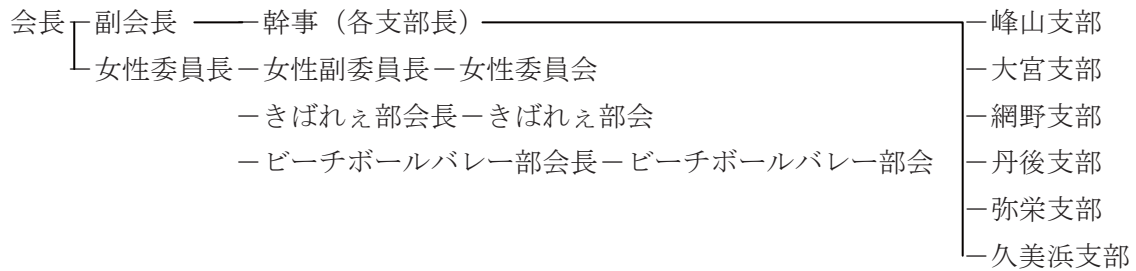
交流会、推進種目を部会制にした打ち合わせ、又、女性委員を中心した事業等、会合等に出席する毎に話す機会も増え、和やかに活動できるようになりました。皆が力を合わせ協力しながら一丸となり、各事業にのぞむつもりです。近くに機会があればお立ち寄りください。

【沿革】

平成16年4月1日、峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町の旧6町の合併により、京丹後市が誕生しました。同年6月16日、京丹後市体育指導委員の資質の向上を図るとともに、本会委員相互及び市教育委員会との連絡を密にし、社会体育・スポーツの振興に寄与することを目的として、京丹後市体育指導委員会が発足しました。

【組織】

〔組織図〕



〔役員名簿〕

会 長	吉岡 毅
副会長	近藤 浩司
副会長	田崎 仁志
女性委員長	稲本美智子
女性副委員長	田茂井里美
幹事（峰山支部長）	田村 浩章
幹事（大宮支部長）	石岡 則弘
幹事（網野支部長）	吉岡 和子
幹事（丹後支部長）	松本 健二
幹事（弥栄支部長）	横島 博文
幹事（久美浜支部長）	梅本 稔博
きばれえ部会長	西井 啓輔
ビーチボールバレー部会長	倉橋 成光



〔スポーツ推進委員数の推移〕 (人)

16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
60	60	60	60	54	57	55	56	57

【歴代役員】

1 歴代会長

平成 16～19 年度	山本 廣治
平成 20～24 年度	吉岡 毅

2 歴代副会長

平成 16～17 年度	安見 義和	丸山 史郎
平成 18～19 年度	石岡 則弘	吉岡 毅
平成 20～24 年度	近藤 浩司	田崎 仁志

3 歴代女性委員長・副委員長

平成 16～17 年度	西村 久留美	藤原 久美子
平成 18～19 年度	藤原 久美子	番場 玉恵
平成 20～22 年度	番場 玉恵	稲本 美智子
平成 23～24 年度	稲本 美智子	田茂井 里美

【事業内容】

ニュースポーツのきばれえ、ビーチボールバレーの2種目を普及推進種目として、支部ごとに各地域でニュースポーツ教室を開催している。また、年に一度、市ニュースポーツ交流大会を開催している。

また、スポーツ推進委員の資質向上を図るための年数回の自主研修会や市民の体力測定会を実施するとともに、丹後100kmウルトラマラソンをはじめ、各種スポーツイベントに対する協力支援、小学生ドッジボール大会の競技運営などを行っている。

【今後の取組（展望）】

市民の健康と体力の維持増進、交流を図るためにスポーツの普及に努め、一人でも多くの市民にスポーツの喜びを味わっていただくとともに、スポーツ推進委員自身が活動を楽しみながら、生涯スポーツ社会の実現に向けた取組を着実に進めていきたい。



きばれえ教室



ビーチボールバレー教室

－伊根町スポーツ推進委員会－

【委員長挨拶】 石倉 直道



京都府スポーツ推進委員協議会様、設立 50 周年おめでとうございます。
当町スポーツ推進委員を代表し、心からお祝い申し上げます。

さて、当町は「ひとが生き生き」輝きながら暮らせることを町の目標としております。我々、スポーツ推進委員におきましても、多くの住民の皆様がスポーツを楽しみ、その中で健康づくりをしていただくべく、スポーツの普及促進に努めてまいりました。我々委員一同、微力ではありますが、活動をより充実させるべく精進してまいりますので、皆様方の御指導、御鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

【沿革】

昭和 3 7 年

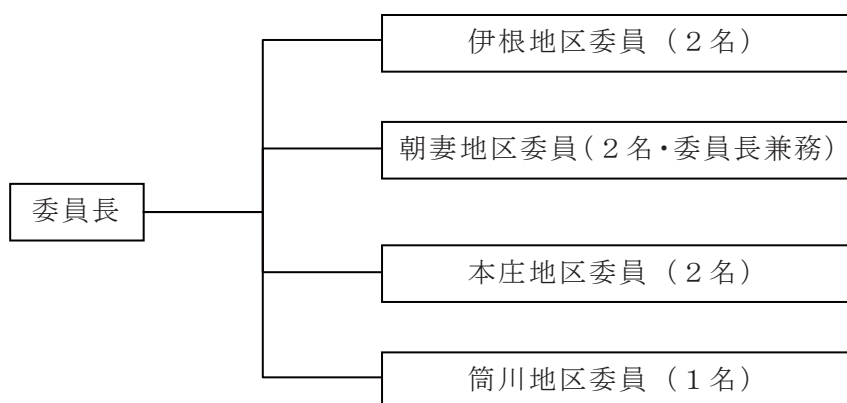
伊根町体育指導委員会設置

平成 2 4 年 4 月 1 日

伊根町スポーツ推進委員会に改称

【組織】

[組織図]



[役員名簿]

委員長	石倉	直道
伊根地区委員	横川	純
伊根地区委員	永濱	恵介
朝妻地区委員	石倉	直道
朝妻地区委員	下垣	友明
本庄地区委員	三野	成彦
本庄地区委員	三野	牧人
筒川地区委員	宇治	幸嘉

[スポーツ推進委員数の推移（過去10年）]

平成14年度	8名
平成20年度以降	7名

【事業内容】

6月中旬 伊根町スポーツチャレンジフェスティバル運営

11月3日 伊根町一周駅伝競走大会参加・運営

12月上旬 ソフトバレーボール大会

【今後の取組（展望）】

- 1 「一人一スポーツ」を目標に、町民の皆さんがそれぞれに楽しめるニュースポーツ等の普及を行い、健康づくり・生きがいづくりの一助とする。
- 2 現在、町内に浸透している「グラウンド・ゴルフ」、「ソフトバレーボール」の普及拡大に努める。

－与謝野町スポーツ推進委員－

【会長挨拶】



奥仲 輝雄

与謝野町は、京都府の北部に位置し、平成18年に3つの町が合併し誕生しました。現在は29名のスポーツ推進委員で活動しています。本町はスポーツが盛んな地域であり、スポーツ推進委員の役割は多岐に渡り、ニュースポーツの指導やスポーツイベントの開催など、生涯スポーツの普及発展に努めております。

【沿革】

- 平成18年4月－ 旧加悦町、野田川町、岩滝町の3つの町の合併より与謝野町が誕生した。体育指導委員も旧町で体育指導委員として委嘱されていた委員の他に新しく委員を委嘱し、与謝野町体育指導委員会が誕生した。
- 平成24年4月－ 法改正により与謝野町体育指導委員会から与謝野町スポーツ推進委員へ名称変更。

1 与謝野町のスポーツ推進委員（旧体育指導委員）の人数

年度	男性	女性	合計
H18	16人	12人	28人
H19	18人	12人	30人
H20	17人	12人	29人
H21	16人	12人	28人
H22	16人	13人	29人
H23	16人	13人	29人
H24	15人	14人	29人

- 2 スポーツ推進委員平均年齢 44, 9歳（平成24年10月）
- 3 任期2年
- 4 総面積 107平方キロ
- 5 総人口 24,063人
- 6 総世帯数 9,185世帯

【歴代会長（委員長、幹事長）】

- 平成18～平成19年度 和田 正（野田川地域）
- 平成20～平成23年度 増井 洋（岩滝地域）
- 平成24年～ 奥仲 輝雄（野田川地域）

【組織】

野田川、加悦、岩滝、の3地域で与謝野町スポーツ推進委員会を組織し会長1人、副会長2人、理事6人、委員20人及び、いきいきウォーキング班、ニュースポーツ大会班、スポーツフェスタ班、登山マラソン実行委員会の大きく分けて4つのグループで構成しています。グループは年度初めに開催する理事会で決めます。

[組織図]



[役員名簿]

会長	奥仲 輝雄	理事・加悦地域	坂中 喜代美
副会長	井上 敦至		大垣 忠博
	起須 淳子	・野田川地域	和田 正
			小長谷 恵子
		・岩滝地域	山添 三知生
			坂根 裕美

【事業内容】

主催事業

月	行事名	内容
6月	いきいきウォーキング（春）	ウォーキング登山（町内在住者を対象）
10月	スポーツフェスタよさの	ニュースポーツ番付、ニュースポーツ大会
10月	いきいきウォーキング（春）	ウォーキング（町内在住者を対象）
11月	与謝野町ビーチボールバレー	ビーチボールバレー大会

通年事業

月	行事名	内容
第2・第4金曜	よさのふれあいニュースポーツ	ニュースポーツ体験
第2・第4土曜	野田川スポーツクラブ	ニュースポーツ体験
毎週金曜日	かやスポーツクラブ	ニュースポーツ体験

協力事業

月	行事名	内容
9月	よさの大江山登山マラソン	登山マラソン
10月	与謝野町駅伝競走大会	町内一周駅伝競走
10月	シルバーオリンピック	高齢者を対象とする運動会
12月	与謝野町卓球バレー大会	卓球バレー大会

【今後の取組（展望）】

○ニュースポーツの普及

町民のスポーツ活動の定着化を促すことを目的に、当町スポーツ推進委員が主催としたイベントを開催し、年齢・体力に関係なく楽しめるニュースポーツの普及に力を入れる。